



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第87号



令和7年度支部通常総会を終えて

日高 研二

令和7年4月12日、宮崎市中央公民館において、支部通常総会を会員の皆様のご出席のもと開催することができました。ご出席頂きました会員の皆様には心からお礼申し上げます。

今回の通常総会では、令和6年度の事業実績・決算、令和7年度事業計画案・定例山行計画案・収支予算案のほか、役員改選、各委員会の編成についてご審議頂き、審議事項すべて承認頂きました。役員改選につきましては、支部長、副支部長、事務局長、会計、監事の全役員が留任することとなりました。

これから2年間、支部の運営に取り組んで参りますので、引き続き、会員の皆様方の温かいご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また、今年は宮崎支部創立40周年ということで、記念事業の報告をさせて頂きましたが、記念山行・記念誌発行につきましてご理解ご協力頂きますようお願いいたします。なお、日本山岳会創立120周年記念事業の山岳古道調査につきましては、薩摩街道・飫肥街道・霧立越の3街道の無事調査を終え、本部に無事報告を終えることができました。数年にわたる大変な調査作業でした。この調査に参加・ご協力頂きました多くの会員の皆様に心から感謝申し上げます。

さて、いつもお願いしていることですが、当支部の課題としては、会員の増強、支部活性化、事業

活動参加者の増加などがあげられます。

会員増強を図るためには、定例山行や自然保護活動など支部の事業活動を外部に情報発信し、友人・知人や山愛好家などに機会あるごと声かけ・働きかけるなどして、地道に忍耐強く勧誘を続けて行かなければならないかと考えます。そして、できるだけ多くの会員の皆様が定例山行などスポーツ活動や支部報投稿など文化活動、懇親交流会などいろいろな支部の事業活動に積極的に参加頂くことが支部の活性化に繋がるものと考えますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

また、山行についてでございますが、山行中の事故はお陰さまでここ数年、当支部においては発生しておりませんが、それぞれヒヤリハットのことは経験されたかと思います。事故はいつ起きるかわかりませんので、事前のストレッチ準備体操や体調管理に努めるとともに、山行中はお互いに注意を払い声掛けしながら「安心安全」を心掛けて山行頂きますようお願いいたします。

最後になりますが、アメリカの詩人サミュエル・ウルマンが書いた青春という詩に「青春とは人生のある期間を指すのではなく、心の持ち方を指すものである。青春とは心の若さである」とあります。

お互いにいつまでも心を若く情熱をもって山クラブライフを楽しめたらと思います。

どうぞ宜しくお願いいたします。

支部創立40周年記念式典

総会後、40周年記念式典が行われた。日高支部長のあいさつで宮崎支部は1985年7月15日(昭和60年)に会員23名で発足し全国20番目の支部として誕生した。会員の皆様と40周年記念式典を迎えられたことの喜びと感謝の言葉を述べられた。その後、永年会員石井久夫先生への感謝状贈呈となり、荒武顧問から「石井先生はこの11月で96歳のご高齢ですが、大好きな霧島連山が見える高原町で元気に暮らしておられます。先生は永年にわたって高校で教育にあたられました。最後の赴任高である高原畜産高校の頃より霧島の自然を護る活動を開始され、えびの高原ボランティア会を設立、それ以来今日まで霧島山を中心として自然保護に尽力されました。そのご功績は、MRT環境大賞をはじめ数々の感謝状に示すごとく高く評価されております。先生は昭和35年1960年に日本山岳会に入会され、当初は熊本支部に所属されていましたが、その25年後の宮崎支部発足に際しては、中心的メンバーとしてご尽力いただいたと聞いております。支部発足後は、皆様ご存じのとおり、山を歩かたびに野鳥をはじめ野草など植物について丁寧に解説していただき、その上、支部報には毎回のように宮崎の自然をテーマにご執筆を続けておられます。お人柄は



(公社)日本山岳会宮崎支部 創立40周年記念式典



感謝状を谷口顧問に代理で受けて戴いた



(公社)日本山岳会宮崎支部 創立40周年記念式典

おど新
会友さ
さん
ようし
く
!!

記念講演



16時30分より記念講演では井田篤先生の「チーム伊能忠敬 日向路測量旅～宮崎の測量図を見ながら彼らの足跡を追う～」はとても興味深い話でユーモアを交えながらの話に聴き入った。
内容は40周年記念誌で紹介。

井田篤先生

祝賀会

会場をひまわり荘に移し40周年記念祝賀会となる。29名の参加にて竹田会員の司会で、支部長の挨拶から始まり、末永軍朗顧問の祝辞で「山岳会というクラブは多数あるが33の支部を有し公益社団法人としての人格を持つ山岳クラブは他にない。日本山岳会は登山を楽しむだけではなく、山岳に関する研究、健全な登山指導山岳文化、自然保護などの活動を通じて社会に貢献していこうというクラブである。日本山岳会会員の一人であることを誇りに思い様々な活動を続けながら社会に貢献していかなければならない」とのお言葉をいただいた。



末永顧問のお祝の言葉



伊能忠敬の地図を熱心に見入る皆さん

弓削先生の乾杯で酒宴となる。竹田会員手作りの絵巻を仲間と披露、竹田会員のユーモアある司会で大いに盛り上がる。武田会員、弓削会員、谷口敏子会員の歌の披露、そして末永顧問の相撲甚句に聞きほれる。親睦をさらに深める和やかな楽しい祝賀会であった。支部だけの祝賀会ではあったがこれから50年、60年と続く山岳会となることを誓って多田会員の万歳三唱で終えた。



[1月定例山行-1] 男鈴山1月12日(日)

蔵屋 とよ

7時30分7名が集合、2台の車に分かれて清武ナフコ発、日南飢肥に入ると西側にひときわ目立つ山が見えてくる。日南市と串間市の境に位置し、山頂付近がやや尖った形の男鈴山と少し丸くなった女鈴山。今回の山行の男鈴山は女鈴山も合わせての計画で標高から気軽に考えていた。9時30分“ふるさと林道コース”優しい名前の登山口から早速の登りで挑戦状をたたきつけられたかのようなだった。登りのあとしばらくは林道歩きだったが、いよいよ林道と上り下りの繰り返し。時に傾斜40度はあろうかと思われる枯葉に埋もれた登り坂もあり要所でロープが助けてくれる。登りは息を切らし、下りでは足元が滑らないよう全神経を集中させる。ロープがなければ後方が滑ると確実に前列の仲間の足元をすくうに違いない。体力と気力を試されるこのアップダウンの繰り返しはどこまで続くのかと思いながら登る。時にその合間の林道歩きで息を整えることができた。

倒木に見たこともないジャガイモかロールパンにも見えるキノコが生え、またサルノコシカケも種類が多い。スダジイやタブノキなどの照葉樹林に覆われ、それぞれに名前のプレートが付いている。キノコのほかに、姿は見えないが何かの獣の鳴き声が聞こえる。620mほどの標高点から下ると「ふるさと林道コース」の標識、次のピークを越すと山神様が祀ってある。苔に覆われた祠の屋根に長い歴史を感じる。次の登りで赤根方面との合流の三叉路に着く。そのあとの急斜面、ひざつき坂と名付けられたらしい。確かに四つん這いで行かなければならないほどの登りだ。ただ一か所ではなく次々と。さすがにしっかりとロープが設置され安全に配慮されている。最後の登りを過ぎ12時15分、男鈴山山頂(783m)に到着。残念ながら展望はないがアップダウンを頑

張った達成感は十分だ。計画では女鈴山まで行き昼食となっていたが、おそらく帰りも登りと匹敵するほどの時間が必要との決断で女鈴山は次回に持ち越しここで昼食となった。

風がなく体感温度はさほど低くなかったが、予報通りの曇り空から間もなく数分間ではあったが粉雪が落ちてきた。女鈴山から下りてきた山ガール3名を見送ったあと、12時55分下山開始。よくぞ登ったと思いながら元来たアップダウンの回数を改めて数える。林道の隙間から見えるはずの麓が灰色になり、山中也霰がパラつき始め雪に変わった。幸い雨具が濡れる前に雪もやみ15時、登山口に到着。酒谷道の駅、酒谷城跡の入り口に寄り、17時清武ナフコ着。

急な上り下りを11回繰り返した運動量と雪が舞う林道歩きで無邪気に喜び誰も怪我することなく無事に帰路についた。

<参加者7名>服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・荒武八起・日高研二・服部岩男

<コースタイム>清武ナフコ前7:30～ふるさと林道登山口9:20/9:30～三叉路11:55～男鈴山山頂12:10(昼食)12:55～ふるさと林道登山口15:00～清武ナフコ駐車場17:00・解散



急坂を慎重に



山神様に安全をお祈りして



飢肥の街並みから見る男鈴山(右側)&女鈴山



急な斜面を何度も頑張って山頂に

〔1月定例山行ー2〕 飢肥街道山仮屋を歩く 1月25日(土)

川越 怜奈

参勤交代で歩いた道である飢肥街道は、飢肥城から佐土原までを結ぶ64kmの古道でその中の山仮屋を歩く。朝8時に清武のナフコ駐車場を出発した。9時に花立公園のゴルフ場近くのトイレのある駐車場に到着。そのあたりはスギの伐採で以前と大分様変わりしていたとのこと。途中、見晴らしのいい広場は「花立の森」で日南の街並み、油津の港が見わたせる。車で通った道は、昔、馬車道であった。遥か眼下には高速道路が通っていた。時代の流れを感じさせる道である。花立山の登り口近くに車を止め、ここからスタート。その前に荒武会員によるスマホのコンパス機能を使い、緯度・経度から現在地を知ることができることの説明を受ける。山登りに慣れていない私にとって、とても為になる話であった。多田会員は車の移動を引き受けていただき一旦ここで別行動となる。車道を40分ほど歩き、山岳古道に入る(約4km)ここは文化庁選定「歴史の道100選」となっている。すぐに供養塔、そして桜並木の桜の老木が歴史を感じさせる。途中で卵のような石を拾い、何かの化石なのではと

盛り上がった。後日、生目の杜遊古館の方に見てもらったところ、戦う時に紐にくくりつけて投げられていた石に似ているとのことであった。思いを馳せながら古道を歩き、岩屋の山神様や石仏を過ぎると関所跡である立派な石垣と少しの屋敷跡が残っている。雲ひとつない素晴らしい青空の下、その屋敷跡で昼食とした。下には飢肥街道を詳しく紹介する看板が設置されていた。イチイガシの古木は根本が大きな空洞となっていて迫力満点。車道との合流地点で多田会員、一足先に関所跡を出発された荒武会員と合流して山仮屋隧道を見学。県内初の道路トンネルである。内部はレンガを使った高度な技術が窺える。その後、椿山森林公園でお茶を楽しみ15時40分にナフコ駐車場に帰着した。

<参加者10名> 清家順子・多田登美子・服部澄子・橋口三枝子・川越怜奈・荒武八起・日高研二・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・

<コースタイム> 清武ナフコ駐車場8:00～花立の森9:20～花立登山口近く9:45～街道入口10:30～桜並木11:05～山仮屋関所跡0:10(昼食)0:50～車道出会13:20～山仮屋隧道13:40～椿山公園14:30～清武ナフコ駐車場15:40



イチイガシの古木



山仮屋の関所跡



山仮屋街道入口で

双石山登山道整備 2月8日(土)

山上 章二

宮崎市山岳協会主催で小谷登山道「水はけと足場の悪い箇所」の整備作業に参加した。総勢29名で小谷登山口から階段に使う木材やそれを止める杭など、予め作業箇所にマーキングされた場所まで運搬。それぞれの場所を2～3名で荒れた山道にスコップや、やま鋏で足場となる木材を埋め込むために掘り下げ木杭を打込む。周りの雑草を鎌で払う。また、昨年設置した水はけ用のビニールパイプ周辺のごみ撤去など。皆さんの作業で滑りやすい箇所や水はけの悪かった山道が次々に整備された。時折、一般の登山者が通過するため作業を中断。「有難うございます。お疲れ様です。」という登山者からの声掛けに一瞬疲れも癒される。また、塩鶴登山道も併せて木杭を打込む作業等が行われた。作業は8時から約3時間程度で終了。整備された登山道を振り返ると清々しい気持ちになった。

今回の整備作業が、登山者の皆さんの安全な登山に役立つことを願うと同時に、継続した山道整備の必要性を感じた日となった。

<参加者9名> 服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・荒武八起・日高研二・服部岩男・川越政則・山上章二



作業の前に説明を聞き開始する

〔2月 定例山行-1〕 宮崎城跡地散策 2月9日(日)

白賀 智子

支部報の山行計画を見ながら、弱った足腰で 付いていける山行があるのかと考えていた時にピッタリの宮崎城散策があった。

雲一つない晴天だがこの日は宮崎市内でも-2.9℃ととても冷え込み近くの田畑は凍っていた。しかし風はなく寒さに負けずこれから歩く宮崎城跡に興味津々。

9時に宮崎城入り口に集合。宮崎城は池内町と上北方にまたがる標高93mの丘陵上にある山城である。登り口の案内板の前で、多田さん、荒武さんから概要を説明していただいた。1500年代、城主 藩主の心理戦などなど、歴史は残酷で興味深い。9時20分、歩き始め土の柔らかさを楽しみながら歩く。転がっている石は丸いものが多く、この小高い山が川底だったことが窺える。地層の事、植物の名前 先輩方の博識にリスペクトするばかり。小さな城とはいえ、防御に有利なように海が見渡せるような高台に位置し、下は垂直の崖、城作りのノウハウが窺える。30分ほどで曲輪のひとつ服部城跡に到着。東京から来られた城巡りをされている方と出会い、話の盛り上がりを見て大小に関係なく城は人気なのだと感心した。土塁、石塔、宮崎城四百年の記念碑が3基あった。次に本丸跡地はきれいに刈り込まれた広い敷地となっている。天守閣跡から街並みを見ながら下りて

いく。歩き始めた向かい側で万願寺跡の戦国時代の墓石を見る。その後、車で移動し古賀病院駐車場そばに移された宮崎城をめぐって勇猛果敢に戦った権藤八右衛門の墓碑を見学する。奈古神社への参拝をして 平和台公園で昼食。少し風も出てきたところ13時40分に解散となった。

あまり参加することができないがこれからもできるだけ参加をしたいと思う楽しい1日だった。宮崎に住んでいながら城が48もある事は知られてないと思うので 折に触れ伝えて行きたいと思った。

<参加者16名>清家順子・谷口敏子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・白賀智子・柏田英子・児玉暁子・荒武八起・谷口菊美・多田周廣・服部岩男・栗林忠信・福島龍好・迫田茂美

<コースタイム>宮崎城入口9:00/9:20～服部城跡9:45～本丸跡10:30～古賀病院駐車場墓碑～奈古神社12:00～平和台12:45(昼食)13:40解散



服部城跡地で

〔2月 定例山行-2〕 釈迦ヶ岳 2月22日(土)

柏田 英子

国富町の法華岳公園、釈迦ヶ岳登山口に9時集合。公園の敷地内は広大で運動広場の自然の中、木にブランコなどが作ってありほのぼのとする。国富町が力を入れるファミリーレクリエーションの場で、この釈迦ヶ岳は山岳信仰の山であり近くの人々は「しゃかんだけ」と呼んで親しんでいるようだ。

9時30分出発、よく整備された登山道の杉林を見ながら林道を気持ちよく歩く。5合目を過ぎた所の石に「ようこそ釈迦ヶ岳へ」と書いてあるのにほっこりとする。6合目からが本格的な登山道歩きとなる。これより急登となるが片側にはロープが張られ安心感がある。そして所々の展望所にはベンチがおかれ森林浴をしながら休憩がで



きこんな時が一番幸せを感じる。9合目を過ぎると岩場にロープが張ってありそこを慎重に登る。急登を登っていくとベンチのある展望所そこを過ぎると壁のない小屋がある。ブルーシートがいくつも括り付けられている。もしもの時の備えなのか? 「山頂まで5分」の標識があり急斜面をひと登りで釈迦ヶ岳山頂に着く。ここに御堂と方向盤があった。山頂の樹間から見える山が米良三山で市房山・石堂山・天包山だそう。そして左側に霧島連山が霞んで見えた。ヤブツバキが少しだけ咲き迎えてくれる。山桜、山ツツジの木も多く花の時期にもまた歩きたいと思う。綾岳から登ってきたという女性のグループにも出会った。5時間かかったと、そのコースにもいつか挑戦してみたい。

新人に合わせて下さりスローペースで、予定より遅くなり登山口に着いたのは16時前となったが天気も最高に良く楽しい登山だった。

<参加者8名>栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・柏田英子・児玉暁子・日高研二・武田芳雄・山上章二

<コースタイム>釈迦ヶ岳登山口9:00/9:20～3合目10:00～展望所11:15～山頂12:50(昼食)13:40～展望所14:30～登山口15:55

熊本支部との交流登山 3月1・2日(土・日)

櫻木 勉

今年度は壮大な「阿蘇の春の風物詩・野焼き」を観覧の予定が生憎の雨で中止となり、田子山(標高653m)散策と熊本地震(2016年4月発生、M7、3 死者277名)「震災遺構・爪痕」をたどる貴重な交流会であった。

初日午後、熊本支部の皆さんと阿蘇草原保全活動センター(環境省が設置し阿蘇の草原を知り・学び・管理するための施設)で合流。センター職員より阿蘇についての解説とビデオを見る。その後、田子山森林公園へ向かい三久保登山口より40分で山頂に着いた。好天に恵まれ、目の前には美しい阿蘇五岳(左より根子岳、高岳、中岳、杵島岳、烏帽子岳)の大パノラマが広がっていた。眼下には世界有数の大きさを誇る阿蘇カルデラ地域が見渡せる雄大な山岳風景・草原・田園風景がもたらす絶景を満喫、見とれてしまう。若いカップルの人気スポットと聞く。



田子山山頂 バックに阿蘇五岳

今夜の宿の「ホテル金時」にて懇親会が18時より催され和やかなひと時を過ごした。その中で熊本前支部長の工藤文昭さんから阿蘇についてと、宮崎支部との初期の交流のお話があり興味深く聴き入った。廣永文昭さんの山の歌も情緒ある歌声を披露された。また、何処の支部も同じように会員の減少・(会員37名・会友40名)・高齢化・活動の縮小など悩みの種と話され年会費を下げたら増えるかも? などなど～話は尽きない。

宮崎支部のコーラスも好評だった。



宮崎支部会員の歌の披露

2日目9時、阿蘇神社参拝(2千年以上の歴史を持ち阿蘇神社の総本社)。熊本地震で拝殿や神社のシンボル「楼門」(国の重要文化財)が倒壊するなど大きな被害を受け復旧工事が続けられ、解体した木材を補修して多く再利用し、耐震性を強め7年8ヶ月振りに往時の姿を完全に取り戻した。日本三大楼門の一つとされる楼門をくぐり本殿に参拝し、復旧されたことに感謝し、登山者の安全を祈念した。

その後、旧東海大学阿蘇の被災校舎跡にある「熊本震災ミュージアム KIOKU」を見学。地震の経験や教訓を学び風化させず確実に伝承し、今後の自然災害に向けて防災対応に活かす貴重な施設である。当時の様子を伝える映像を見てその激しさを知り、ペチャコンになった車・曲がりくねった鉄道のレールなど、その時の様子を振り返る事となった。校舎の真下を断層が貫いており、断層の活動によって建物が壊れた状況を間近で見られ被害の大きさを改めて実感した。

前年、能登半島地震(2024年1月 M:7.6、死者508名)の記憶も生々しい中で、我が宮崎県も南海トラフ巨大地震の想定震源域に当たり、この施設で震災の実態を体験できたことで巨大地震に備える心構えが不足していたことを痛感し、日頃から「わがこと」とし、また「体づくり」をして必要な行動や、事前準備をして置くべきと強く感じた。「家具を固定する」「非常持ち出し袋を整える」「ハザードマップを確認する」「3日分の非常食・水を準備」などは日常でやっておく事が大切とボランティアガイドの方が熱心に説明された。

熊本支部の皆さんとはここで解散になった。2日間のお世話いただいたことに感謝した。次に新阿蘇大橋 ヨ・ミュール(良く見える)展望所散策、旧橋は震災で壊れ学生さんが、一瞬にして巻き込まれたその現況を遺して新しい大橋が600m下流に5年の歳月を懸けて立派に完成した。絶景だが複雑な思いでひと時を過ごした。

昼食は栗林さんの案内で南阿蘇村名物の「そば道場」で、のどごしの良い風味豊かな美味しいそばを頂いた。途中パン工房など寄り道して、宮崎に18時過ぎ帰り着いた。運転していただいた皆さんお世話になり有難うございました。今回の熊本交流会は雨のため行程の変更だったが、地震に対する教訓を知る良い機会だった。参加された皆さんお疲れさまでした。



復元された阿蘇神社前で熊本支部の皆さんと

<参加者>宮崎支部14名>谷口敏子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・日高研二・谷口菊美・武田芳雄・多田周廣・櫻木勉・服部岩男・栗林忠信・迫田茂美・熊本支部13名

第40回諸塚山山開き 3月8・9日(土・日)

服部 岩男

一日目(8日)

ヤマダ電機を10時30分3台に分乗して出発する。東郷道の駅で買い物をした後、美郷町のおせりの滝を見物する。前年の水害で道がかなり荒れていて手入れもされてなく、少し歩きにくかったが滝が5段全部見える一番上の展望台まで登った。何回見てもよい眺めだ。その後の諸塚村の入口にあるAコープで買い物を済ませ時間に余裕があったので六峰街道にある「倉の平展望台」まで足を延ばす。椎葉の山々の稜線が素晴らしい。眼下には青い橋と青いダム湖も見えた。

宿泊する六峰館(研修センター)に16時過ぎに到着。交流会が18時から行われた。宮崎支部会員12名と観光協会や地元の人7名も加わり大いに盛り上がった。和気あいあいのうちに一次会が終わり支部会員だけの2次会も楽しいひと時を過ごした。もう少し参加者が多ければ良かったが今の支部会員数では無理かもしれない。今回も参加することができて良かった。



椎葉の山々をバックに「倉の平展望台」



二日目(9日) 六峰館にて地元の方との交流と話も盛り上がる

六峰館を8時に出発する。曲がりくねった山道をひたすら登り式典会場の行われる飯干緑地広場に9時に到着する。9時30分から山開き式典となり神事、挨拶が行われ最後に地元中学生による「山の誓い」の朗読があった。ウッドカットは諸塚山山開きならではのイベントでいっつもながら見ごたえがある。支部代表で谷口菊美会員(90歳)がスポットライトを浴びた。その後登山を開始、登山道には前日に降った雪がうっすらと残っていたが天気はよく風もなく思ったより暖かい。登山道もよく整備されていて、階段はすごく多いが、段差は高くないので歩きやすい。登るスピードは他の登山者もゆっくりなので息も上がらずコースタイムの20%増しぐらいで登れたと思う。



ウッドカットは宮崎支部から谷口菊美会員

山頂に到着すると、数分後に朝日新聞社のヘリコプターが飛来し何回も旋回し皆で手を振って応える。ヘリコプターのカメラマンが手を振るのが見えるほど低く飛んだ。その後弁当を食べたが、風もなく暖かいので、おいしくいただけた。下山はいつもの回り道ではなく登って来た階段の登山道を下った。今回もゆっくりペースと、このコースはコースタイムも短いので膝も痛くならなかった。飯干緑地広場に着くと去年は甘酒が終わっていたが今年は間に合って良かった。イベント広場には40年前からの上空からの写真が展示してあったが第20回目は地上からの写真で宮崎支部会員が8名ぐらいが写っていて懐かしかった。

ヤマダ電機には18時に帰りついた。何ごともなくよかったと思う。今回は第40回の諸塚山山開きで宮崎支部も40周年の記念すべき年に参加できて良かった。朝日新聞によると参加者は約700人とのことだ。今後も可能なかぎり参加したいと思う。



<参加者16名> 谷口敏子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・荒武八起・日高研二・谷口菊美・武田芳雄・櫻木勉・服部岩男・栗林忠信・9日のみ平田五男・山上章二・石田三枝子・甲斐洋子

<コースタイム> 8日 ヤマダ電機10:30～東郷道の駅12:30(昼食) 13:40～おせりの滝14:16/14:46～諸塚～倉の平展望台15:50～六峰館16:20 9日 六峰館8:10～飯干緑地広場9:00神事9:30緑地広場発10:00～登山口10:30～山頂11:20(昼食) 12:10～登山口12:55～緑地広場13:20/13:55～諸塚14:35～東郷道の駅～ヤマダ電機18:00

双石山山開きに参加して 3月16日(日)

武田 芳雄

双石山山開きの前日は雨で中止を予想していたが、天気の回復が予報にあり、実行されることになった。神事のところには雲の間に青空が見え隠れする空模様になる。雨後により多少のコース変更があるが、神事後、A、Bコース、Cコースの加江田溪谷散策に分け9時20分出発。私はAコース、2班となる。小さな沢を渡渉をする所では滑りそうな石に布をかけ、リーダーが渡る人を補助していた。この先ではサツマイナモリが多く咲き小さな白い花が歩く人の目を引く。若い3人の女性がいてにぎやかだった。福岡の美容学校に行く人がおり、卒業の思い出作りと言う。よき思い出になるであろう。杉の落ち葉の上を歩き樹幹の隙間に見る空は曇天であった。藪椿が咲いているが、落ちて日経ち花の良さをなくしたものが多くある。12時、

山小屋到着。小屋の中で昼食をとる。火の番をしている人から、アルミ箔の中の焼き芋を貰う、熱くてうまい。

山頂に13時到着。集合写真を撮り下山する。晴れ間を隠すように雲が流れ、風が冷たい。渡渉地点は水量が減ったような気がする。時間がたてば少なくなっていくのだが、かつて北海道の山小屋で午後からは水量が増すので気を付けてと言われたことがある。それは雪解けの水で増えるらしい。雪のない地域では分からないことだと思った。16時会場に帰着。ぜんざいが振舞われ、お代わりをする。準備をされた皆様、ありがとうございました。

<コースタイム>安全祈願祭8:30～丸野駐車場発9:20～ひょうたん淵9:45～麻島10:50～山小屋12:00山小屋(昼食)12:20発～13:10山頂13:45～山小屋～麻島14:50～ひょうたん淵15:50～丸野駐車場16:10

<参加者4名>蔵屋とよ・荒武八起・武田芳雄・山上章二



一緒に頑張った皆さんと双石山山頂



加江田溪谷開き 3月16日(日)

前原 満之

家一郷いやしの森(旧多目的広場)までの道程は、片道1.5km(行きは説明受けながらの2時間20分、帰りは1時間)である。多目的広場を改称した理由は、多目的という言葉が、禁じている焚火等何でもできるというイメージがあるからとの事。遊歩道はもともと木材を搬出するための森林軌道(約13km)で、昭和14年頃から47年頃まで使われていた。「加江田溪谷学習の森(0.45km)」は平成25年に25種1020本を植えたとの事。葉を傷つけることで字が書けるタラヨウは、郵便として出せるといっても直接ポストに投函はダメ(郵便局持参要す)。ウラジロの代わりにされることもあるコシダの茎は籠編みの材料になる。山の境界によく植えてあるハウライチク(キンチク)は薪を縛るのにも使われていた。ここに生息するヤマネは冬眠期間が約半年にも及ぶため、なかなか見られない。



時々見かける白い塗料を塗ったような木の枝は、絹皮病(キヌカワビョウ)といって菌に冒され枝の内部が腐って柔らかくなり紐のように垂れ下がったもの。硫黄谷に生えているのはバナナでなく耐寒性のある芭蕉。カエデ橋(吊り橋)は、加江田溪谷の保護に尽力した川越石男氏の奥様の寄贈をもとに平成12年に架設されたが、平成19年豪雨のため流失した。

加江田溪谷の会の方の色々な説明を受けながら、サツマイナモリの花を時々見つつ、久しぶりの溪谷を堪能した。ゴリラ岩とかあったが、自分なりに岩が何に似ているか、見ながら歩くのもいいのではと思った。

<参加者6名>服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・柏田英子・前原満之・日高研二



多目的広場は「家一郷いやしの森」と改称された

鰐塚山山開き 4月13日(日)

橋口 三枝子

明け方まで降り続いた雨の影響もあったのか参加者は少なかったが鮮やかな新緑の中、「いこいの広場」登山口で山開きの式典が行われた。田野まちづくり協議会会長の挨拶が行われ、登山前にはお茶やコーヒー、お菓子の振る舞いもありスタミナをつけ出発。標高差は782mを一気に登るルートは急登の連続、1歩1歩マイペースで登って行く。林道から登ってくる合流地点にはサツマイナモリの花が群生していた。この登山道は11基の鉄塔がある。見えるのは4つ目からだがここは右に見ながら登る。5基～10基目と通過しその先も急登は厳しく足も重くなる。足元にはヤブツバキの落花が静寂の中に鮮やかな赤色がひときわ映える。9合目ぐらいからはショウジョバカマが見られる。お目当てのイワザクラはまだ蕾、それでも出会えたことに感激。

山頂のダンコウバイは青空に映え美しい。日南の山々、霧島連山など360度のパノラマを楽しみながら昼

食を摂り下山する。鉄塔も終わりの所で「配電鉄塔入口」の標識につられ入ってしまう。数メートルだが鉄塔の先の道がない、あれ？と思いすぐに気が付いた。ここは通過しない鉄塔だと、登りでは間違えることはないが下りでは分岐になっていて、うっかり入ってしまい道間違いの原因ヒヤリハットだった。そんなこともあったが無事14時10分登山口着。

(橋口の他は、山頂から9合目のイワザクラ観賞となる)

<参加者6名>服部澄子・橋口三枝子・荒武八起・服部岩男・栗林忠信・荒武達朗



山開き挨拶



ダンコウバイ

[4月定例山行]えびの岳 4月27日(日)

清家 順子

大淀川ゴルフ場駐車場に8時集合12名、3台の車で出発する。小林ルートからえびの高原は久しぶりで生駒高原から先の曲がりくねった道路には未だ桜が咲き新緑が美しい。今日は爽やかな晴天の中えびの岳(1292m)へ登る。私は10年ぶりのえびの岳登山となる。登山口にはキシマミズキやオオカメノキの花が迎えてくれた。なだらかな山道沿いに赤松は硫黄谷からの噴煙の被害で沢山枯れ果てている。その中にキシマツツジが満開、坂道歩きの中楽しい会話が弾み「今日は散歩だね～」と春の霧島を堪能する。

えびの岳展望所に11時40分。目の前には白く噴煙を上げる硫黄山や韓国岳などが見える。遠くに桜島、錦江湾も見ることができた。集合写真は鹿児島から来られたという若いお二人にお願いし嬉しい出会いもあった。そこから20分程で三角点のある頂上に着く。標柱はないのでここが山頂とは気づかず通過しそうなところである。ここで多田さんが「南はどっちだと思う」と問われ三角点と表示されている面が南方向であることを初めて知った。ここで昼食を摂り下山。30分程でアカマツの林のキャン

プ場に着く。ここで元支部会員であった樋ノ口さんにお会いする。現在キャンプ場のお手伝いをされているということいろいろな話を聞くことができた。ここからの眺望も噴煙の被害で赤松が沢山枯れている。それでもキシマミズキが黄色い房を下げ美しく、ノカイドウはいつもはこの時期盛りを過ぎた頃になのに今年は、まだ蕾で気象の影響なのか花も戸惑っているようだ。

足湯に浸かり疲れを癒し帰路に着いた。途中「ゆーぱるのじり」でタケノコや春野菜、花苗など購入してソフトクリームをいただき大淀川ゴルフ場駐車場に無事到着。

皆さん有難うございました。

<参加者12名>清家順子・多田登美子・橋口三枝子・蔵屋とよ・白賀智子・柏田英子・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・四宮林三・福島龍好・会員外・小斎平

<コースタイム>大淀川ゴルフ場駐車場8:00～ゆーぱるのじり8:50～えびの高原10:00登山口発10:20～えびの岳展望所11:40～山頂12:00/12:35～キャンプ場13:05/14:10～ゆーぱるのじり15:10～大淀川ゴルフ場駐車場16:20



赤松林のキャンプ場で樋ノ口さんと



[事務局だより]

支部行事予定表(5月～9月)

月 日	行事名	備 考
5月8日(木)	第306回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
5月10日(土)	定例山行 ニツ岳	ヤマダ電機 6時30分発
5月25日(日)	定例山行 高千穂峰・鹿ヶ原散策	大淀川ゴルフ場駐車場7時30分発
6月5日(木)	第307回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
6月14日(土)	定例山行 穆佐城散策 高岡町	現地集合9時30分(元穆佐小学校跡)
6月22日(日)	定例山行 矢筈岳 日之影町	ヤマダ電機 7時30分発
7月3日(木)	第308回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
7月10～13日(木～日)	40周年記念山行 ハヶ岳 長野県	
7月27日(日)	定例山行 竜峰山～竜ヶ峰 熊本県八代	大淀川ゴルフ場駐車場6時30分発
8月7日(木)	第309回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
8月9日(土)	定例山行 飯盛山 えびの市	大淀川ゴルフ場駐車場 8時発
8月24日(日)	定例山行 向坂山・白岩山 五ヶ瀬町	ヤマダ電機 6時発
9月4日(木)	310回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
9月13日(土)	定例山行 百貫山 えびの市	大淀川ゴルフ場駐車場 8時発
9月20～21日(土)～(日)	定例山行九州5支部集会阿蘇の山 熊本	古道調査報告会

支部会務報告(1月～4月)

月 日	事業・行事	開催場所	人員	備考
1月9日(木)	第302回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	16	
1月10日(金)	86号支部報発送			A4. 12ページ 120部
1月12日(日)	定例山行・男鈴山	日南市	7	
1月25日(土)	定例山行・飢肥街道(山仮屋)	北郷町	10	
2月5日(水)	宮崎家庭裁判所委託登山	双石山	11	
2月6日(木)	第303回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	18	
2月8日(土)	双石山登山道整備	小谷・塩鶴登山道	9	総数(29名)
2月9日(日)	宮崎城散策	宮崎市	16	
2月22日(土)	定例山行・釈迦ヶ岳	国富町	10	
3月1～2日(土日)	熊本支部交流会・田子山・阿蘇神社	阿蘇 ホテル金時(泊)	14	熊本支部13名
3月6日(木)	304回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	17	
3月8～9日(土日)	諸塚山山開き	諸塚村 (六峰館泊)	16	9日のみ参加4名含む
3月16日(日)	双石山山開き・加江田溪谷開き	双石山・加江田溪谷	11	総数(42名)
3月23日(日)	支部会計監査・総会準備	活動センター	7	資料作り
4月6日(土)	総会打合・40周年準備委員会会議	活動センター	11	
4月12日(土)	第42回総会・305回登山研究会	中央公民館	31定例	総会33(委任状11)
4月12日(土)	創立40周年記念式典・講演・	中央公民館	31	祝賀会ひまわり荘(29)
4月13日(日)	定例山行 鰐塚山山開き	宮崎市田野町	6	全15名
4月27日(日)	定例山行 えびの岳	えびの市	12	

投稿のお願い山行に関するものはもとより、随筆・詩・短歌・俳句など何でも結構です。皆様の積極的な投稿を何卒よろしくお願い申し上げます。また支部報に関するご意見などありましたら編集委員会へ忌憚なくお寄せください。

カラーページのご案内 配布します本支部報は、経費節減のため白黒印刷ですが、日本山岳会ホームページの宮崎支部を開きますと全カラーで閲覧できますので是非ご覧ください。

編集後記

5月初め照葉樹林の山々は花盛りを迎え、落葉樹の紅葉にも劣らない輝きを見せてくれます。宮崎支部は今年40周年を迎えることができました。高齢化で若い時のような山行は難しくなっていますが、仲間と共に体力にあった山の楽しみ方を工夫しながら、次の50周年に向け若い人たちにも、山と共にある人生の素晴らしさを伝えていけたらと思います。支部報も87号を数え、何時もの事ながら、原稿のお願いに快く応えて頂きありがとうございました。(栗林)

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 87号

発行責任者：日高研二

編集委員：橋口三枝子(編集委員長)、荒武八起、谷口敏子、多田登美子、栗林淳子、蔵屋とよ

事務局：橋口三枝子

〒880-0930 宮崎市花山手東3丁目11-6

Tel, Fax 51-4179, 090-7450-6406

E-mail: hashimie2713@gmail.com

口座：郵貯銀行 記号 17310 番号16269811

名義人：(社) 日本山岳会宮崎支部